

山本リベンジ37秒差V

高校男子(登録)伊遠征で成長

ゴールへと続くラストの登り坂は山本のためにあつた。早々と両手を高く突き上げ王者の雄たけびとともに駆け抜けた。7周、63分の長丁場。ラスト1周の残り5分付近で飛び出しスパイトした。「スプリントは苦手なんです。そうならないよう、イメージ通りに走りました」。昨年、ゴール直前のスプリント勝負でもがいて沈んだ。教訓を生かし、成長を証明。162号と小柄だがパワーの詰まった体で、2位に37秒以上の差をつけた。降雨もあり出走127人の半数近くがリタイアしたサバイバルレースを力強く制した。

9月にはジュニア日本代表としてイタリア南部での国際レース「シロ・デ・バジリカーター」に出場。初めて日の丸を背負った。指導する奈良北高自転車競技部の三好泰彰顧問(43)は「イタリアから帰国後、団体にも出て、期末テストもあった。そんな状況の中で思った通りのレース運びだった。たくましく、大きくなってくれた」と驚いた。

4年前に統廃合で誕生した同校は強豪だった北大和高校自転車競技部の歴史を引き継いでいる。山本の頑張りのもあり、受け継いできた歴史にまた新たなページが書き加えられた。



雄たけびをあげてゴールする高校生男子の部(登録)の覇者・山本元章

2008.10.27(日刊スポーツ)